

2011 年度

「21 世紀社会のリーダー育成」助成金報告書

2012 年 3 月 5 日

人間環境学部 CES 研究ゼミ

担当教員：田中 勉

## a) 活動総括

人間環境学部 田中 勉

### 1. 2011年度の目標

このゼミのスタート（法政大学と千代田区の協力協定が締結された2006年）以来の目標は、第一に千代田区についての学びを深めること、第二に千代田区およびCES推進協議会（会長：石神隆人間環境学部教授）など関係者と連携して「環境配慮行動促進のためのプログラム」を提案・実践することである。

今年度ゼミは新規メンバーが多くなったこともあり、第一の目標に関しては、二つの下位目標をたてた。①千代田区の環境政策について学ぶ、②ゼミ生による千代田区研究、である。特に②に関しては、各自でテーマを決め資料収集や「まちあるき」を夏期休暇の課題とし、レポート作成、後期semesterでの報告・討論、を義務づけた。

第二の目標は具体的には区役所・CES推進協議会・事業者・区民と協力して、学外でそしてキャンパス内で各種のイベントや企画を実施していくことである。その際、ここ数年引き継いできたプログラムの成果を検討し再構築することを目指した。また、ゼミ生からは各種イベントにより主体的に関わりたいとの声があり、イベントの企画自体を任せてもらえるようにした。

これら二つの目標は相互に関連している。学びを実践に反映し、実践から学びの課題を発見する、という往復を意識してゼミを運営することがゼミ担当者教員としての目標であった

### 2. 活動内容と成果

2011年度は3月の東日本大震災により授業開始が遅れたため、ゼミ活動も様々な点で影響を受けた。例年行われてきた区内のイベントにも中止となるものがあつた。しかし、ゼミでは震災に関連したプログラムが新たに提案され、いくつかの活動が行われるという新たな展開を見せた。

詳しくは資料（「2011年度のCES研究ゼミ活動一覧」）で示すが、主な活動のいくつかを報告する。

前期semesterでは、まず千代田区の環境行政の現状について区職員から講義を受けた。千代田区は「地球温暖化対策条例」を制定しており、「環境モデル都市」にも選定されている。そこで、区はどのような施策で「低炭素化」を図ろうとしているのかを語ってもらった。また、電発事故に伴う区施設での節電対策についても情報提供があつた。

人間環境学部の1年次必修科目「人間環境学入門」で環境マネジメントシステム（EMS）について講義が行われた際、地域版EMSであるCESについて紹介をした。他人に分かるように説明するためには、よく準備をして自分の理解を十分にしておく必要があるので、ゼミ生自身の勉強のために行った。

前期のイベントのうち秋葉原地区での「ウォーキングプラス」企画を任せてもらい、コースの設定、見学ポイントでのガイド役など準備をしたが雨天のた

め延期になり、後期に再度企画したがまた雨天で結局中止になった。ただし、下調べや見学ポイントの説明内容の検討などを通して得るものが多くあった。

後期はいくつかの区やCES協議会主催のイベントに参加した。また、夏期休暇の課題の研究発表とディスカッションを「千代田大研究」とかなりおおげさなタイトルで行った。各自が千代田区について関心のある事項について材料を集め発表を行ったが、歴史が刻まれた地域としての千代田区に関するトピックが多く取り上げられた。多様なテーマでの発表が行われたが、自分で調べる、自分の足で歩いてみるといったことに興味をもったゼミ生が多かったようだ。イベント準備のためディスカッションの時間を多く取れなかったが、ゼミ生の関心も高く、次年度も続けてみる意義があるプログラムとなった。

夏から後期にかけて、初めての企画「ちよだフォトコンテスト」を実施した。これは「千代田区の自然」をテーマとした写真を区民（通勤・通学者を含む）から募集し、展示会場での来場者投票により受賞作品を決めるというものであった。入賞作品はポストカードに作り、イベントなどで「千代田区さくら基金」への募金を呼びかけ、募金者に配布した。この企画は、入賞者への賞品を提供してもらうなど「千代田区観光協会」の協力を得て実現した。

今年で3シーズン目となる「CES環境講座（全8回）」は区と環境に関するさまざまなテーマを取りあげ専門の講師による講義とエコツアーからなる講座である。ゼミ生は講座の開催補助としてまた受講生として参加した。うち1回は、講師を根崎光男人間環境学部教授に依頼し、外濠校舎教室においてCES協議会とゼミの共催という形で開催した。

この他、「学祭」や「環境展」など学内で開催されるイベントへも参加、CESの広報とゼミ活動の紹介などを行った。

以上のような多様な学習と実践を通して、多くの成果を得ることができた。千代田区についての知識を増やしたことにとどまらず、自分たちの活動を通じて千代田区の環境へ関心を持ってもらうためにはどのような試みが有効であるか、さまざまな試行ができた。また、そのためには十分な準備が欠かせないことも身にしみて自覚した。さまざまな機会を捉えてプレゼンテーションの能力を高める工夫も行った。映像資料の作り方、説明の内容、話し方などについていささか厳しすぎたのではないかという思いもあるが、確実にプレゼンテーション技術は向上したと言える。

年度終わり近くなって、CES協議会より「CESクラスⅡ（個人事業主の環境配慮を促すしくみ）」に関して、区内の登録事業者を対象としたアンケート調査の依頼があり、期末試験後に実査を行ったが、調査方法、訪問調査のやり方、報告書作成法などについて学習し、面接調査の実際を経験したことも成果の一つである。

このゼミは学生の自主性を前提として運営している、CES協議会とゼミとの協働について事務局や企画担当者との折衝や、学習課題の選択を自分たちで決めるなど、ゼミ生のあいだに能動的であろうとする雰囲気が出来てきたのも今後につながる成果である。

### 3. 課題と展望

前項の多様な活動において多くの課題が明らかになった。前年度からのプログラムを引き継ぐ意識がまだ強く、「フォトコンテスト」を除けば活動の再構築に向けての具体的動きが不活発であったことが挙げられる。その背景には、ゼミの時間を有効に使うことが出来ていないことがあるだろう。ゼミ生同士の話し合いの技術が未熟で、意思決定に時間がかかることを改善しなければならない。これはゼミ生の自主性に任せることと背反する課題であるが、担当者教員としてはどこまで介入するか模索しなければならない。

ゼミの活動を通して、学生は自治体・企業・区民とかかわる体験をする。仲間内のやりとりだけでなく、社会人との関わりの中で礼儀や言葉遣いを含め「社会人としての基礎力」を養うことが出来る。自分たちの想いをいかに他者に伝え、共感を得て協力を実現してゆくか、これは実践を通じてしか体得できない。ゼミ報告書には、毎年ゼミ生の「コラム」を載せている、社会人との交流で得たものが大きかったことへの言及が多く見られる。

C E S 推進協議会との連携により多くの企画を実施している、協議会との関係強化も課題である。ゼミの主体性を発揮して、創造的な提案ができるようになることが求められる。イベントの手伝い程度の参加であると動機づけが低下し、実りあるものとはならない。協議会の会合に恒常的にゼミ生から出席者を出すなどの改善を課題としたい。

「地域リーダー育成」の名称であった頃から本助成金はこのゼミにとって貴重な資金となっている。このゼミは学部生のゼミとしてはかなり異色であろう。各種イベントの開催に伴い、さまざまな支出が必要となる。「資金があるからやる」ということはなく、ゼミ生も出来るだけ費用がかからない方策を考えている。大学生の活動だからと、関係者の好意により現物給付を受けたり、参加費を無料にしてもらったりしたこともある。

助成金を受けてこのゼミ活動が可能になっており、感謝申し上げます。また、関係者の支援に御礼申し上げます。

## b) 学生報告書

人間環境学部 3 年 A 組 09H0026

武田翔（ゼミ長）

### 1. ゼミ概要

私たちのゼミは 2006 年 3 月に法政大学と千代田区との間で、事業協力協定が締結されたことを受け、大学生による環境政策の提案・実施をめざす場として設置された。千代田区は昼・夜間で人口の差が極めて大きいという世界でも例を見ない特性を持つ地域であるため、区は独自の環境マネジメントシステムを構築する方針を打ち出した。ゼミでは、「個人の環境配慮行動を促進する仕組みづくり」（CES クラス I）を担当している。ゼミ生が考案した 3 つのプログラムと、本年度は東日本大震災に対する支援を目的とした新プログラム 1 つを加え活動を続けている。

以下に、ゼミで考案した 4 つのプログラムについて簡単に説明する。

- ・「千代田エコポイント（略称：ちよぼ）」…学内でペットボトルキャップの回収活動などを通し、環境改善の貢献を可視化する活動を行う。
- ・「マイちよ」…「CES ちよだフォトコンテスト」の企画運営などを行い、区民に千代田区に対する愛着を持って頂くきっかけ作りを担う。
- ・「ちよだ検定（略称：ちよ検）」…環境問題や千代田区の歴史や自然に関するクイズを通し、区の環境へ配慮する行動を提案する活動を行う。
- ・「東日本プログラム」…本年度新たに誕生したプログラムで、東日本大震災の支援のため学生と被災地の橋渡しを行う。

以上の 4 つのプログラムを中心とし、千代田区の環境配慮行動促進のために日々研究と実践を続けている。

### 2. 活動報告

#### ①ゼミでの学習（毎週月曜、5・6 時限）

まず 5 月にはゼミとの関わりが千代田区温暖化対策課の方を招き千代田区の概要や環境政策について講義を受けた。CES という仕組みの意義と取り組みについて再確認し、私たちのゼミのあり方について考えるきっかけとなった。夏休み期間にはゼミ生各自で自由な千代田区研究を行い、後期のゼミで発表を行った。発表テーマは各ゼミ生の関心によってかなりバラエティがあるもので、どれも個性的なものであった。

#### ②市ヶ谷キャンパス内での活動

学内での活動では、昨年度から継続している活動として「ちよぼプログラム」による大学内のペットボトルキャップの回収がある。現在、55・58 年館、ボアソナードタワー、富士見坂校舎のごみ箱の横にキャップ回収ボックスを設置しており、今後、外堀校舎にも設置する予定だ。キャップが 400 個集まると、ポリオワクチン 1 人分に変えることができ、途上国の子供のために使われる。

「マイちよプログラム」では第1回の「CESちよだフォトコンテスト」を実施した。千代田区に愛着を持ってもらいたいとの思いから、千代田区の「自然」をテーマとして作品を募集し、区役所区民ホールと法政大学校舎で展示会を開催、来場者の投票で入賞作品を選んだ。入賞作品をポストカードに作成し、千代田区さくら基金に募金をして頂いた方に配布した。

「ちよ検プログラム」は人間環境学部の授業で、CESの普及のために仕組みの説明と「ちよだ検定」のクイズを出題し、広報に務めた。

さらに、10月の「環境展」、11月の法政祭にも出展した。

### ③キャンパス外での活動

本年度は震災の影響もあり、前期はあまり多くのイベントに参加することは出来なかったが、6月は「環境リサイクル祭り」に参加した。8月「アキバグリーンフェスティバル」、10月「福祉まつり」「CESちよだフォトコンテスト」、2月「CES環境フェスタ」などのイベントに参加し、各プログラムを実施した。イベントではブースに訪れた区民の方々に向け、「ちよ検」の問題を解いて頂く、「CESちよだフォトコンテスト」の広報・入賞作品展示、普段のエコ行動をチェックしていただく展示などを行った。実際に地域の方々と交流し多くを学ぶことが出来た貴重な体験になった。また、8月から後期にかけてフォトコンテストを実施した。

さらに、2012年になって、区内の個人事業者を対象に「CESクラスⅡ」における「環境配慮店制度」に関するアンケート調査を行った。

その他にも、千代田区やCES推進協議会主催の様々な環境イベントに参加することで、千代田区に対する一層の理解を深めることが出来た。

(詳しくは資料「2011年度のCES研究ゼミ活動一覧」を参照してください)

## 3. 今後どう活かしていくか

ゼミでは千代田区の環境マネジメントシステム構築には大学・企業・行政・区民などの様々な主体の協働が必要だと考えている。そのため、各主体間の協働を推進していくためにはどのようにしたらよいのか、ということの研究し提案・実践を行ってきた。ゼミでの学習は、机の上の勉強だけではなく、実際に現場に出ることでナマの意見・空気を感じることにある。つまりこのゼミは、地域の方々と交流の中で自分たちの研究を活かし、一方で交流を通じて新たに学ぶことが出来るという「循環」をめざしていると言えよう。

今後社会に出て行くことを考えた時、このCES研究ゼミでの経験は大きな糧となるだろう。学生でありながら、行政や企業といった社会人の方々と共に活動し意見交換を行う事が出来る環境は、ゼミの大きな魅力であると断言できる。千代田区における環境政策の推進という共通目標のもとで、年齢や立場の垣根を越えて、様々な方々と関わる事が出来る貴重な場となっている。ゼミで得た経験を元に、社会人になってからも積極的に意見交換・企画提案を行っていきたい。ぜひとも今後入ってくるメンバーにも、同じように実りある体験を積み重ねて欲しいと思う。

最後に、「2011年度 CES 研究ゼミ報告書」（3月刊行予定）に掲載したゼミ生のコラムから、4年生3名の記事を紹介する。

〇ゼミに所属して多くの経験をさせてもらった。イベントではクイズをしながら千代田区を訪れた人、住んでいる人とお話することができた。また、「CES 環境講座」に今年も出席した。普段出会わない方のお話が聞ける貴重な機会であった。

私が所属しているプログラムでは大きな改革や新しい挑戦をせず昨年からの継続に終わってしまったので、プログラム編成を大きく変えるのも良いのではと思う。ゼミは卒業となるが、今後もゼミで学んだことを活かして環境に配慮した行動を心がけていきたい。

〇私は就職活動中に、「あなたがしている事で、環境に一番いいと思う事は何ですか？」と聞かれた事がある。私は「環境問題を学んでいる事です」と答えた。普段の生活のなかで、確かに私はエコバックを使ったり、アイドリングストップをしたり、環境配慮行動をとっている。しかしそれらは、以前からしていたのではなく、私が人間環境学部の CES 研究ゼミで環境問題を学んでいるから行っていることなのだと気づいたのだ。

ゼミには「CES 環境講座」、「ウォーキングプラス」、「ちよだ検定」といった、環境を学び考えるプログラムがいくつもあるが、こうしたイベントの参加者にも、私と同じような意識が芽生えるのではないだろうか。それが環境リーダーの本質であり、このような人々を増やすために CES の活動を、これからも広げて行ってほしい。私は卒業して千代田区を離れるが、どこへ行っても、このゼミで学んだ事を忘れず、環境を大切にしていきたい。

〇環境問題は、1人の力で解決できない問題である。多くの人の協力があってこそ、成し得るのだと感じる。私は、環境について学ぶ学生として、学んだことを伝えていかなければならないと考えた。そして、このゼミに入った。

ゼミでは、人との出会いが数多くある。区役所の方々をはじめ、イベントの出展者や来場者など、多くの出会いを経験した。その度に、自分達の活動を振り返っては、改善策を見つけ、次への励みにしていた。これらの出会いを深め、有効に活用できたなら、もっと新しい可能性を見出していけるのではないだろうか。

2年間で、何を成し遂げられたか。どれだけのことを伝えられたのか。目の前のことを精一杯、がむしゃらにやってきた。このゼミは、学ぼうと思えばいくらかでも興味を与えてくれた。得たことは、言葉にできないほど多い。月日が経つのがとても早かった。このゼミに入り、濃い学生生活を送れた。今後を担うゼミ生にも、本ゼミの面白さや奥深さを満喫してほしい。

## ●資料●

### 2011年度の活動一覧

#### 2011年

- ・ 6月17日（金）  
環境・リサイクル祭り（千代田区区民ホール）
- ・ 6月20日（月）～24日（金）  
第6回 ちよだランチ・エコキャンペーン（秋葉原）
- ・ 7月11日（月）  
特別講義「千代田区の地球温暖化対策の取り組みについて」  
講師：大塚光夫氏（千代田区環境安全部 副参事）
- ・ 7月13日（水）  
人間環境学入門（第10回講義）
- ・ 8月27日（土）・28日（日）  
秋葉原エコ縁日（ベルサール秋葉原ビル1階）
- ・ 8月～2012年3月  
CES ちよだフォトコンテスト
- ・ 10月15日（土）～2012年1月28日（土）  
CES 環境講座（全8回）  
（区役所・新丸ビルエコツツェリア・法政大学）
- ・ 10月22日（土）  
第4回 ウォーキングプラス  
第9回 福祉祭り（区民ホール）
- ・ 10月24日（月）～28日（金）  
第12回 環境展（法政大学外濠校舎1階、メディアラウンジ）
- ・ 11月3日（木）・5日（土）  
大学祭（法政大学市ヶ谷キャンパス）
- ・ 11月14日（月）～18日（金）  
第7回 ちよだランチ・エコキャンペーン
- ・ 11月14日（月）～2012年1月16日（月）  
千代田大研究

#### 2012年

- ・ 1月31日（火）～2月17日（金）  
CES クラスⅡ環境配慮店制度アンケート
- ・ 2月18日（土）  
ウォーキングプラス 冬鳥ウォッチング  
（日比谷公園～桜田門～皇居外苑～馬場先濠～日比谷公園）
- ・ 2月24日（金）  
千代田区環境フェスタ 2012（区民ホール）